

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和5年3月16日

事業所名 放課後等デイサービスももたらう

		チェック項目	はい	いいえ	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7		運営規定に遵守しており、施設外回りの活用や屋外での療育活動を行うなどして、ソーシャルディスタンスを図っている。
	2	職員の配置数は適切である	7		
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		7	バリアフリーではないが、安全面に配慮している。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7		PDCAサイクルに基づき日々業務改善に取り組んでいる。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	1	年一回保護者様向けアンケート等を実施し、保護者様のご意向を把握し業務改善に努めている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7		HPIに公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		7	未設置。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7		オンライン研修などに参加している。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7		独自のアセスメントシートを作成し、個別支援計画に反映させている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7		
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		個別にプログラムを設定し、随時更新している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7		平日は時間が限られた中で日課に取り組んでいるが、休日は集団活動を通じての療育に重きをおき、きめ細かく個別の設定はしない場合もある。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7		支援会議を持って放課後等デイサービス計画に反映させている
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7		送迎開始前に、必ずミーティングを実施している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		7	支援終了後の打ち合わせの場は設けておらず、特記すべき事項がある時のみ必ず共有している。パートなど毎日出勤しない方へは、支援開始前に前日の様子について報告している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7		個別支援計画計画を基に記録を行っている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7		定期的に行っている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	7		ガイドラインに沿って支援するよう心掛けている。

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7	子どもの下校時間の確認は、学校と連携しつつも、基本は保護者からの連絡で確認し合っている。送迎時の児童の状況等急を要する場合は、学校より連絡を頂いている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		7	医療的ケアが必要な方が現在、通われていない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている			相談支援員からの情報及び、保護者からの聞き取りを行っている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	7		相談支援員を通して情報提供をしている。詳細を知りたい場合はいつでも提供できる。特に情報を求められない場合もある。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		7	必要に応じて、助言を受けている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		7	特に機会を設けていない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		7	積極的には参加していない。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	7		日々、送迎時に保護者の方と直接お話をするとともに、連絡ノートも活用しながら情報共有をしている。
保護者への 説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	7		専門的なペアレント・トレーニングは行っていないが、必要に応じて助言している。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7		変更などがある場合は、その都度説明を行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7		必要に応じて行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		7	積極的な保護者同士の連携は必要ないと考えている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7		苦情があった場合は、迅速に対応し適切に対応している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	2	5	ホームページを随時更新、不定期で会報等の発信をしている。また連絡帳、電話にて必要事項を伝えている。
	35	個人情報に十分注意している	7		十分に配慮している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		7	今年度は、コロナの影響で、コンサートを開催することは出来なかったが、社会情勢を踏まえて実施したいと考える。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7	随時、更新を行い、職員間で周知している。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	月に一回、避難訓練を行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7	拘束の必要な児童がいないため、計画に組み込むことはしておらず、過去に実施したことはない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	現在該当児童がいない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	事例集は無いが、随時、職員間で共有している。